



貴重な決勝ゴールを叩き出した中田(右)。チームはこの男を中心にまとまり始めている。それだけに次節の順大戦でも結果が欲しいところだ



得点后、⑧中田を中心に歓喜の輪が出来る。チームの雰囲気の高さがうかがえた(撮影・岩田陽一)

<第2節終了時点順位表>

チーム名	勝	負	分	得	失	差	勝点
1 筑波大学	2	0	0	5	1	+4	6
2 国士館大学	2	0	0	5	2	+3	6
3 東京学芸大学	1	0	1	3	1	+2	4
4 駒澤大学	1	0	1	2	1	+1	4
5 日本大学	0	1	1	2	3	-1	1
6 聖徳大学	0	1	1	2	4	-2	1
7 順天堂大学	0	0	2	1	4	-3	0
8 中央大学	0	0	2	0	4	-4	0

JR東日本カップ 2003 第77回関東大学サッカーリーグ戦(前期) 1部リーグ 第二節

駒澤大学1-0中央大学

粘りが生んだ貴重な「勝ち点3」！！ 首位浮上のきっかけとなるか！

チームを救ったのはやはり頼れる主将！

前節の日大戦同様、雨の中で行われた中大戦。両チームに出されたイエローカードは計9枚。「勝ちたい」という気持ちで前面に押し出された激しい試合となった。

駒大は前節FWで起用し、機能しなかった永井を右サイド・ハーフに起用。小林亮をトップ下に置くといった大胆な采配を行い勝ち点3を狙っていた。この采配が試合の序盤から効果をみせた。「パスでもドリブルでも裏に抜けて、センタリングをあげると指示があった」と言う永井が再三に渡って、右サイドを疾走し、チャンスを作り出した。しかし、圧倒的に攻めながらも点が取れないという「決定力不足」は相変わらずで、点が取れない嫌な展開が続く。40分には中田のクロスを橋本がヘディングシュート。しかし、相手GKの好守に阻まれるなど、開幕戦と同じく前半を0-0で折り返す。

しかし、「ここでも負けると2連勝しているチームにかなり離されてしまう(鈴木)と言うようにどうしても結果がほしかった駒大は後半怒涛の攻めを展開する。そして、この嫌な流れからチームを救ったのは主将の中田だった。54分、牧野のからボールをうけとると、この日好調の永井が前がかりになっていた相手のスペースにドリブルで突き進む。そして右サイドからのクロスは中に走りこんできた中田の右足に。「永井が速くていいボールをあげてくれたんで、うまく合わせられました」と中田というゴールは貴重な先制点となった。しかし、このゴールで試合を有利に運べると思われた駒大だったが57分、筑城がもらひ退場。残り時間を10人で戦わなくてはならない厳しい状況に。しかし、「逆にディフェンスの意識が強くなり、集中して残り時間を守りきれたと思う」と鈴木が話すように、その後はチーム全員で1点を守り抜き、試合終了。駒大にとっては今季初勝利、貴重な勝ち点3を獲得した。